

1・自己評価及び評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077900142
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム幸
所在地	福岡県三潴郡大木町大字侍島861番地
自己評価作成日	平成23年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、家庭延長上にあり「家庭的な雰囲気な中で」という事をモットーに取り組んでいます。理念にもあるように、笑顔で過ごされる空間をつくり、地域との触れ合いを頭に入れてケアを行なっています。自然に囲まれた所に建物があるので車も少なく、温かくなるとのんびりと散歩できる環境です。利用者だけではなく、職員も笑顔で明るく接するように心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16		
訪問調査日	平成24年5月29日	評価結果確定日	平成24年6月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

オレンジと黄色が明るく映える平屋建てで、周囲を自然豊かな田園に囲まれる中に立地している。住宅地の中にあり、車の往来が少ないため、散歩する際も、車椅子でも、安全に移動することが出来る恵まれた環境である。近隣の住民とも良好なつきあいを続けており、季節の野菜をいただいたり、野菜作りを習ったりと、地域に密着したサービスが提供されている。又、近くに主治医の病院があり、地域の方達の集まりの場ともなっていて、利用者が通院の折には顔なじみと話が弾んでいる。職員は、利用者が地域の中で生活することを意識して、居心地のよい家庭作りを目標に、ひとり一人がその人らしく生き活きと安心して生活が送れるように心がけている。今では利用者が自分の生活のリズム、流れを大切にしながらゆったりとした日常生活を過ごしている。以前は家族との連絡が摂りにくい時期もあったが、最近はお家族とも折りに触れ連絡し合い、意見や要望を取り入れるように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：25, 26, 27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：20, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている 参考項目：32, 33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を掲げている。理念と共に毎年掲げている代表者の訓示を毎朝、朝礼時に読んでいます。玄関やホール内、詰所内に提示し職員、利用者がみやすくしている。	毎日の朝礼時に理念にふれ、利用者への日頃のケアの中に生かされているか職員同士で話し合っている。また話し合いの中で具体的なケアの統一を図っている。利用者がいつも笑っていただける事を目標に、理事長の「向こう三軒両隣」の言葉通り、地域に密着した関係作りに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方から手作りの野菜を頂いたり、苑で行われる敬老会に招待したりしている。	かかりつけの病院が近くにあり、地域の方の集まりになっている、通院時に顔見知りになりご利用者を覚えて頂き、話しかけてもらっている。施設の畑があり、作り方も地域の方から教えてもらっている。	病院が地域の集まりになっている事を生かし、今後は事業所にも気軽に来て頂けるよう、行事の案内を病院等に掲示することなどで周知していきたい、積極的な交流を深めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ地域の方への理解も得られるようになり、事業の行事へ招待したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、評価や改善すべき事項に関して報告し、意見を伺いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。出席者は行政や民生員と家族会長、施設からは、管理者や職員が参加している。会議内容はサービスの実際、今後の活動計画を報告し、出席者から意見や要望などを取り入れ検討している。	運営推進会議には、家族会長一人だけしか参加してもらってなかったため、今後は、家族全員にも前もって開催のお知らせを行い、運営推進委員や、行政の方等と直接意見交換してもらい、地域とのかかわりや、今後の取り組み等、サービスの向上に生かしていけるように期待したい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	回数は多くないが、介護面での相談等で行く事はある。地域包括センター、運営推進会議への参加の声かけをおこなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは、身体拘束により利用者を傷つけ、不利益をもたらすことを理解している。また、当ホームの契約書にもその内容に触れており、利用者や家族に明示している。スタッフはホーム全体の取り組みとして、日常的に共通認識を持って実践している。	玄関の施錠は行われていない。現在1名、家族の同意の下、車椅子のベルト使用を行っている。状況に応じて、ソファに座ってもらったり、自由に床の上を動いてもらったりして開放し、危険のないよう見守りを行っている。職員は身体拘束が利用者を傷つけ、不利益をもたらすことを理解しており、ホーム全体の取り組みとして、日常的に共通認識を持ち実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、全職員が高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、利用者の事業所内での虐待がないように心掛けている。		

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症に伴って必要なケースが出てくると思っています。必要に応じてご家族に説明できるように学んでいる。1名の利用者が日常生活支援事業を活用している。	管理者は、以前、日常生活自立支援事業等の制度について学習しているが、全職員が学ぶ機会、研修には至っていない。現在は、月1回の勉強会行ったり、外部研修への参加を、積極的に取り組めるように努力している。	全職員が、制度について学ぶ機会や、研修を行うことで、研修記録を残したり、パンフレットや資料等を、利用者や家族にいつでも情報提供できるように、情報開示の努力もされることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の項目ごとに説明をし確認をとり理解、納得ができるように心掛けています。その他、必要に応じて家族へは説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な市の介護相談員の来訪、運営推進会議、家族の面会等にて苦情や不満を外部者へ表せる機会が多いと思う。利用者からの意見や苦情・不満についてはミーティングで議題にあげ職員全体で対策を考えている。	年2回の家族会などで、利用者や家族からの意見や要望を表せる機会作りを行っている。その事を運営推進会議に提案し、サービスに反映させ、生かしていくように心がけている。	家族会議で出た意見などを、運営推進会議や、ミーティングなどで取り上げ検討する。意見を出してくれた家族には、結果報告する事が、相互の信頼関係を構築し、よりよいサービスの質の向上につなげることを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートやミーティングの開催等にて職員の意見や提案を聞ける場を設けている。	管理者が、ミーティングや勉強会等で、職員からアイデアや気づきを上手く引き出しており、職員の意見を積極的に運営に取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ、職員の希望を取り入れ、平等に働けるように、お互い協力したり助け合ったりしながら、職場環境、条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証	採用時は面接を行っている。年齢や性別で排除することはない。本人の意欲、介護への熱意を考慮して採用している。また、労働時間も本人の希望を尋ね規定内に収まるようにしている。	職員採用時は、本人の性別や年齢などを問わず、親を介護した経験のある方など、今までの経験してきたことが生かされ、その能力が十分発揮できるように配慮している。資格取得にも積極的に声かけをして、仕事をしながらでも資格が取れるようにシフト上の配慮を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	特に代表者、管理者による講習は行われていない。職員に対しては日頃から理念・訓示等にて説明している。	管理者は、日頃から理念などを通して、職員が利用者の人権を尊重するように、声かけ、言葉遣いなどを指導している。個々の利用者の生活を尊重し、あせらず、ゆったりとした気持ちで過ごせるよう「心のケア」を提供している。	

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	計画はないが経緯、資格に沿って可能な限り研修には参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている。	地域の支部の方で定期的に勉強会、連絡会を行っており、管理者が参加し、その内容を全職員へ伝えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には事前訪問を行い、入居前の住居で生活環境の把握に努めている。その際、本人、家族、施設、病院からの情報提供を参考に可能な限り本人の意向に添ったサービスができるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、入居日に家族とも話す機会を設けている。相談があればいつでも対応可能なことを伝えるとともに面接時には何か困っていることはないか等、声かけを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	情報収集を行い、適切に判断できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をとる。一緒に調理を行うなど共に生活を送る事で一緒に笑ったり、喜んだりと空間を共にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	多くの家族が良く面会に来られる。良い家族間の関係が築けている家族に対しては、外出、外泊を勧めることもあり、より良い関係が継続できるように支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出の際、利用者の馴染みのある場所へ寄ってみたり自宅への外出等を家族に相談・実施できるように心がけている。	入所時に、利用者がこれまで培ってきた人間関係や、社会との関係を細かく聞き取っている。支援者との関係だけでなく、本人が支えてきた人間関係まで把握することで、入所後も相互にそれぞれと良い関係が継続よう積極的なアプローチを心がけている。	

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を近くの座席にする。逆にトラブルになる利用者間はスタッフが間に入りトラブル回避に努めながら孤立する利用者がいないように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状悪化に伴う一時的退去に限っては、定期的に面会に行くなどして、その後の状況を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族とモニタリングを行い、本人が何を望んでいるか把握できるように努めている。カンファレンスの際も、本人本位のケアプランができるように配慮している。	日々の行動や表情を見ながら声掛けを行い、家族とも連携を細かく取っている。職員間でも毎朝のミーティングで情報の共有化を行い、本人が自分の思いを言える様に支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取りフェースシートに記入し情報の共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの作成及び定期的な見直しを行い本人の有する能力の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を可能な限り反映した介護計画を作成している。その他、必要に応じて、家族、本人、病院などの関係者と確認された課題について協議し、計画を作成している。	半年に1回の定期的家族会議を行い、毎月のホームだよりと一緒に取組みやコメントを書き、家族へ送付している。毎月モニタリングを行い、状態の変化時等に介護計画の見直しを行っており、毎日の支援経過に介護計画実施状況の記録を行っている。	計画書には、日々のサービス内容が細かく書かれて分かりやすいが、介護計画を、毎日の記録の中に簡略化して取り込み、さらに利用者の表情や生活状況が見える記録となるよう期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に見直すとともに状態変化時、意向の変化時にはケアプランの修正を行っている。		

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族とモニタリングを行い、本人が何を望んでいるか把握できるように努めている。カンファレンスの際も、本人本位のケアプランができるように配慮している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば民生委員、自治会への協力要請ができる体制はとっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が協力医院以外の病院を希望される場合は継続して支援している。協力医院の医師も必要に応じて往診していただく為、早めの対応ができています。	月2回ホームドクターの往診がある。他科受診時も、職員が送迎の対応を行っている。家族や利用者の希望で、以前からの主治医受診も可能である。家族送迎での受診時は、経過記録を伝える事が出来る職員が付き添い、情報提供を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師へはちょっとした変化でも、相談し連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に病状の状況や治療方針及び経過、退院予定日を確認している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者を中心に主治医、家族と相談し今後の方針を決定している。	看護師が常駐でないため、重度化や終末期については、見取りが出来ないなどの指針を家族等へ説明し明文化している。早い段階で家族と相談しながら、重度化した場合はその都度、家族と相談の機会を持ち、協力医院などへ連携をはかりながら、支援していく体制が取られている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時にマニュアルは作成しているが、初期対応の訓練は、実施していない。(以前研修は受けたことがある)		

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち会いの避難訓練、火災報知機の取り扱いを実施している。	消防署立ち会いの訓練や、自主訓練も行い、夜勤者1人の時を想定しての避難訓練も行っている。誘導手順書を作成し、近くの安全な避難場所の確保も出来ており、全ての職員が把握している。	家族に対して、避難場所の通知が出来ていなかった為、今後、家族会やホーム便りで知らせて、家族とも周知を図っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	机上の整理整頓、保管棚に鍵をかけるなどして個別の記録物が見えないように配慮している。	本人の気持ちを尊重し、トイレや入浴介助時に、恥ずかしい思いをさせないよう配慮し、介助される身になって支援や援助に努めている。日々の介助のなかでは、一人ひとりの人格を尊重した声掛けを行っている。ミーティング等でも話し合うが、その場で気付いた時には職員間でも注意し合って迅速に細かい改善を施設全体で心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訪室し、他者に聞こえないように配慮し言いやすい環境を作ったり、日頃からコミュニケーションを密にとり、言いやすい環境作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のタイムスケジュールを作成せず、毎日の申し送りや状態、体調や利用者の意向を確認しながら当日の予定をたて、可能な限り、希望に添った支援が行えるように努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を依頼している。本人の行きつけがある場合は、近隣であれば送迎を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、スタッフとともに調理の下ごしらえを行ったり、皿洗いなどの手伝いを行っている。	栄養バランスを考えた食材を取り寄せ、苦手な食材は個別に判らない様に工夫した調理等を行っている。施設の畑で作った季節野菜や近隣の住民の差入れもある。行事食や外食もあり、外やベランダで気分を変えたり変化があり、職員も一緒にテーブルにつき和やかな雰囲気の中で食べられている	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスは、九州医療食を取り入れたことにより確保している。一人ひとりに応じた量等も職員が十分理解している。又、食事チェック表に記入し記録として保管している。		

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいの徹底と、夕食後の歯磨き施行。週1回義歯洗浄(必要に応じて毎日行うこともある)施行。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄や、排泄自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや生活のリズムを見ながら、個別のトイレ支援を重視しており、状態が改善出来る様に支援を行っている。1日の水分摂取量もチェックしながら、脱水等にならない様に気をつけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を望むが、排便困難時には、Drの指示のもと、一人ひとりにあつた下剤を服用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴予定表はあるが、入浴前に希望を聴き、出来るだけ希望に添うように臨機応変に対応している。	定期入浴以外にも、入浴追加の希望により、入浴日を増やしたりの対応も可能な限り行っている。明るく広い浴室で、個人の好みのシャンプーを利用したり、入浴剤の使用もあり、個浴で介助もゆったり出来る。窓の外には垣根があり、木漏れ日や夏はそよ風も感じられる配慮がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠状態を把握し、睡眠障害のある利用者に関しては、生活リズム作りや安心できる環境作りに努め、安眠対策を取っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬表を作成して、個別の内服薬の用法・容量や副作用の理解に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活のリズムがマンネリ化しないように外出やレクリエーションの工夫をしたり、利用者個々の生活を活かした役割を担ってもらっている。		

GH幸(自己・外部評価表)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がよく暖かい日には、希望を聞き散歩に出かけたり、ドライブに出かける。利用者の希望を聞きながら、時には日頃いけないような所に外出する機会を設けている。	施設は田園に囲まれ、車椅子等でゆっくりと散歩が出来、神社等へも行っている。買い物ツアーや季節の花見にも出掛け、ドライブに行く事も多く、有名な川くだりのコースに添って道を車で下ったりと工夫している。外出は毎月行っており、行事の中に定期的な外出予定が組み込まれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面を考慮し、施設管理している。本人の希望があれば、スタッフと買い物に出かける。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時及び家族と直接話す必要がある時は、利用者自ら電話をしている。手紙なども希望時には、やり取りができるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える景色は、日当たりが良く静かな環境が出来ている。	玄関には素敵なステンドグラスがあり、広いフロアには大窓から十分な太陽光が入り、季節の移ろいが感じられる。職員の特技を活かし素敵な作品や壁画が飾られ、花見の写真や利用者全員の笑顔のアップ写真があり微笑ましい。畳みの間や中央にゆったりしたソファがあり落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、自由に座れるようにしてくつろぎの場所を作っている。又、個室なので独りになりたい時などは、居室で過ごされることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や馴染みの物を置き、居心地良く過ごせるようにしている。	居室には設備え付けのエアコン、ベット、タンスがあり、利用者の馴染みの楽器や人形、時計、ラジオ等があり、家族からのお花や写真も飾られている。安全に居心地良く、過ごせる様に生活の動線も考えて配置もされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内に手すりを設置したり、環境整備等により転倒防止に努めている。自室がわかるように名前プレートを付けている。		